

Amplification of C-erbB-2 Gene in Gastric Carcinoma: Correlation with Survival

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15054

学位授与番号	医博甲第1088号
学位授与年月日	平成5年3月25日
氏名	津川浩一郎
学位論文題目	“Amplification of the c-erbB-2 Gene in Gastric Carcinoma: Correlation with Survival” (胃癌組織における c-erbB-2 遺伝子の増幅：予後との相関)
論文審査委員	主査 教授 宮崎逸夫 副査 教授 佐々木琢磨 教授 磨伊正義

内容の要旨および審査の結果の要旨

近年、さまざまな悪性腫瘍において、癌遺伝子の増幅・発現と転移・予後との関連が明らかとなりつつある。これまでに教室では胃癌組織において、c-erbB-2 遺伝子産物の発現を免疫組織化学的に検討し、c-erbB-2 蛋白発現例は非発現例に比べ予後不良であることを明らかにしてきた。しかし、これまでに胃癌症例で、c-erbB-2 遺伝子の増幅と予後との関係を検討した報告はない。そこで本研究では、ヒト胃癌組織におけるc-erbB-2 遺伝子の増幅について検索し、臨床病理学的諸因子ならびに予後との関係につき検討した。

対象は金沢大学第2外科において切除された胃癌症例82例の原発巣である。ホルマリン固定パラフィン包埋組織よりDNAを抽出し、c-erbB-2 遺伝子に対する特異的なprobe ; KX probe (440 bp) を用いて、Slot blot hybridization法にて遺伝子増幅の有無を検討した。また、同一症例で蛋白の発現も同時に検討するために、c-erbB-2 蛋白に対するポリクローナル抗体を用いて免疫組織染色を施行した。得られた結論は以下のごとく要約される。

- 1) 遺伝子増幅を82例中11例、13.4%に認め、蛋白発現を82例中28例、34.1%に認めた。c-erbB-2 遺伝子増幅例は、全例が蛋白発現陽性であり、蛋白発現陰性例には遺伝子増幅を認めなかった。c-erbB-2 遺伝子増幅と蛋白発現の間には強い相関が認められた。(P=0.0068)。
- 2) 遺伝子増幅例は11例中8例がstageIVと進行例が多かった。
- 3) c-erbB-2 遺伝子増幅例は非増幅例に比べ、有意に予後不良であった(P=0.018)。また、c-erbB-2 遺伝子増幅例は、蛋白発現陽性例、また、最近様々な癌で予後不良因子とされるDNA aneuploid症例の中でも、さらに予後不良であった。
- 4) c-erbB-2 遺伝子増幅例は、リンパ節転移再発の頻度が高い傾向に認められた。

以上により本研究は、ヒト胃癌においてc-erbB-2 遺伝子の増幅が、癌の進展に関与し、予後因子および再発予測因子として重要である可能性を明らかにした癌遺伝子研究上価値ある労作と認められた。